

NPO 法人「リ・フォープ」 一時、活動休止をさせていただきます。

1993年3月、「六甲アイランド南端のマリンパークで、挑戦的な野外アート展を開催しよう」と、作家とその支援者の有志7名で、「リ・フォープ Rokko Island Water Front Open Air Play」チームを結成しました。

1994年9月の開催に向けて、企画を進行させ、しかも、海の自然と人工島の融合した、当時最新の神戸らしい場所・マリンパーク南端遊歩道で、毎年同時期開催を念頭に、企画を構想していました。

しかし、1995年に阪神淡路大震災が発生し、展覧会会場のマリンパークは無残にも崩壊し、また、隣接のエンターテイメント施設も破壊され、周囲の状況も激変してしまいました。平日はむろんのこと、休日にも六甲アイランド住民の散歩道として愛される程度の空間になっていました。

やむをえず一年間休催し、閑散とした状況のなか、それでも人を引き付けられる作品とは何かを追求した作家たちの地力がチームを動かし、思案検討の末に、1996年8月、「第3回六甲アイランド野外アート展」を再開し、自然の力を受けて立つアートが存在することを明示しました。

芸術が人の生きる不屈の証であることを作品で表現し、以後、2002年の「第9回展」まで、開催することができました。

「リ・フォープ」チームは、この展示会場以外にも、「アートは地の力だ」と銘打って、大都市空間での「地力展」など、先駆的な試みを実行しました。空虚な空間を逆利用して、アート巡回することにより、非日常的な不可思議な空間を現出させ、見る者との交感作用を湧出させたのです。

しかし、現在では、日常的にまちの中が、「展示・展覧会」となってしまう、全国津々浦々で開催されるようになっていきます。

現在、すべてがフラットな感覚の中で、逆に自由表現の困難な時代に切っ先をつきつける「リ・フォープ」が企画したい現代美術作品展の「かたち」はどのようなものなのか、模索中です。芸術作品の魅力、しかも同時代に同人類として生きている表現者のエネルギーを発揮できる方法を探っているところです。

活動休止に至った理由は、かくのごとくですが、休眠中のエネルギーがどのようなかたちで爆発するのか、今しばらく、時間の猶予をいただきたいと考えています。

あらたな「リ・フォープ」の活動まで、見守っていただきますよう、お願い申し上げます。